



開始...

SANtricity commands

NetApp
June 17, 2025

目次

開始...	1
非同期ミラーリング同期を開始する - SANtricity CLI	1
サポートされているアレイ	1
ロール	1
構文	1
パラメータ	1
最小ファームウェアレベル	1
整合性グループスナップショットのロールバックを開始する - SANtricity CLI	2
サポートされているアレイ	2
ロール	2
コンテキスト (Context)	2
構文	2
パラメータ	2
注：	3
最小ファームウェアレベル	4
ボリュームバリティチェックジョブの開始 - SANtricity CLI	4
サポートされているアレイ	4
ロール	4
構文	4
パラメータ	4
最小ファームウェアレベル	5
iSCSI DHCP 更新を開始する - SANtricity CLI	5
サポートされているアレイ	5
ロール	5
コンテキスト (Context)	5
構文	5
パラメータ	6
iSCSIホストポートラベルの特定	6
注：	7
最小ファームウェアレベル	7
コントローラのトレースを開始する - SANtricity CLI	7
サポートされているアレイ	7
ロール	7
コンテキスト (Context)	7
構文	8
パラメータ	8
注：	9
最小ファームウェアレベル	9
ディスクプールのフルプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI	10

サポートされているアレイ	10
ロール	10
コンテキスト (Context)	10
構文	10
パラメータ	11
最小ファームウェアレベル	11
ディスクプールの検索を開始する - SANtricity CLI	11
サポートされているアレイ	11
ロール	11
コンテキスト (Context)	11
構文	11
パラメータ	12
最小ファームウェアレベル	12
ディスクプールのリソースプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI	12
サポートされているアレイ	12
ロール	12
コンテキスト (Context)	12
構文	12
パラメータ	13
最小ファームウェアレベル	13
ドライブ消去の開始 - SANtricity CLI	13
サポートされているアレイ	13
ロール	13
コンテキスト (Context)	13
構文	13
パラメータ	13
最小ファームウェアレベル	14
ドライブの初期化を開始する - SANtricity CLI	14
サポートされているアレイ	14
ロール	14
コンテキスト (Context)	14
構文	15
パラメータ	15
注：	15
最小ファームウェアレベル	15
ドライブの検索を開始する - SANtricity CLI	15
サポートされているアレイ	16
ロール	16
コンテキスト (Context)	16
構文	16
パラメータ	16

注：	16
最小ファームウェアレベル	17
ドライブ再構築の開始 - SANtricity CLI	17
サポートされているアレイ	17
ロール	17
構文	17
パラメータ	17
注：	18
最小ファームウェアレベル	18
ドライブチャネル障害分離診断の開始 - SANtricity CLI	18
サポートされているアレイ	18
ロール	18
コンテキスト (Context)	18
構文	18
パラメータ	19
注：	21
最小ファームウェアレベル	21
ドライブチャネルの検索を開始する - SANtricity CLI	21
サポートされているアレイ	21
ロール	21
コンテキスト (Context)	21
構文	21
パラメータ	21
最小ファームウェアレベル	22
テストメールアラート設定 - SANtricity CLI	22
サポートされているアレイ	22
ロール	22
構文	22
パラメータ	22
例	22
最小ファームウェアレベル	23
ディスクプールまたはボリュームグループ内のボリュームの容量を増やす - SANtricity CLI	23
サポートされているアレイ	23
ロール	23
コンテキスト (Context)	23
構文	23
パラメータ	23
注：	24
最小ファームウェアレベル	24
入出力コントローラ (IOC) ダンプの開始 - SANtricity CLI	25
サポートされているアレイ	25

ロール	25
コンテキスト (Context)	25
構文	25
パラメータ	25
注：	26
最小ファームウェアレベル	26
FDEセキュアドライブ消去を開始する - SANtricity CLI	26
サポートされているアレイ	26
ロール	26
コンテキスト (Context)	26
構文	27
パラメータ	27
注：	27
最小ファームウェアレベル	27
スナップショットイメージのロールバックを開始する - SANtricity CLI	28
サポートされているアレイ	28
ロール	28
コンテキスト (Context)	28
構文	28
パラメータ	28
注：	29
最小ファームウェアレベル	29
SNMPトラップの送信先をテストする - SANtricity CLI	30
サポートされているアレイ	30
ロール	30
構文	30
パラメータ	30
最小ファームウェアレベル	31
SSD キャッシュの検索を開始する - SANtricity CLI	31
サポートされているアレイ	31
ロール	31
コンテキスト (Context)	31
構文	31
パラメータ	31
最小ファームウェアレベル	31
SSD キャッシュ パフォーマンス モデリングを開始する - SANtricity CLI	32
サポートされているアレイ	32
ロール	32
コンテキスト (Context)	32
構文	32
パラメータ	32

注：	32
最小ファームウェアレベル	33
AutoSupport 配信設定のテスト - SANtricity CLI	33
サポートされているアレイ	33
ロール	33
構文	33
パラメータ	33
最小ファームウェアレベル	34
ストレージアレイの AutoSupport 手動ディスパッチの開始 - SANtricity CLI	34
サポートされているアレイ	34
ロール	34
コンテキスト (Context)	34
構文	34
パラメータ	34
最小ファームウェアレベル	35
ストレージアレイ構成データベース診断を開始する - SANtricity CLI	35
サポートされているアレイ	35
ロール	35
構文	35
パラメータ	35
注：	36
最小ファームウェアレベル	37
ストレージアレイコントローラのヘルスイメージの開始 - SANtricity CLI	37
サポートされているアレイ	37
ロール	37
コンテキスト (Context)	38
構文	38
パラメータ	38
注：	38
最小ファームウェアレベル	38
ストレージアレイディレクトリサーバーのテスト - SANtricity CLI	38
サポートされているアレイ	39
ロール	39
コンテキスト (Context)	39
構文	39
パラメータ	39
例	39
外部キー管理通信のテスト - SANtricity CLI	39
サポートされているアレイ	39
ロール	39
コンテキスト (Context)	40

構文	40
パラメータ	40
最小ファームウェアレベル	40
ストレージアレイの iNS サーバーの更新を開始する - SANtricity CLI	40
サポートされているアレイ	40
ロール	40
コンテキスト (Context)	40
構文	40
パラメータ	41
注：	41
最小ファームウェアレベル	41
ストレージアレイの検索を開始する - SANtricity CLI	41
サポートされているアレイ	41
ロール	41
コンテキスト (Context)	41
構文	41
パラメータ	41
最小ファームウェアレベル	41
OCSP サーバー URL テストを開始する - SANtricity CLI	42
サポートされているアレイ	42
ロール	42
パラメータ	42
構文	42
最小ファームウェアレベル	42
ストレージアレイのSyslogテストを開始する - SANtricity CLI	42
サポートされているアレイ	42
ロール	43
構文	43
パラメータ	43
最小ファームウェアレベル	43
同期ミラーリング同期の開始 - SANtricity CLI	43
サポートされているアレイ	43
ロール	43
コンテキスト (Context)	43
構文	44
パラメータ	44
最小ファームウェアレベル	44
Syslog 構成のテスト - SANtricity CLI	44
サポートされているアレイ	44
ロール	44
構文	44

パラメータ	44
例	45
最小ファームウェアレベル	45
トレイの位置特定を開始する - SANtricity CLI	45
サポートされているアレイ	45
ロール	45
コンテキスト (Context)	45
構文	45
パラメータ	45
最小ファームウェアレベル	45
ボリュームの初期化を開始する - SANtricity CLI	46
サポートされているアレイ	46
ロール	46
コンテキスト (Context)	46
構文	46
パラメータ	46
最小ファームウェアレベル	46
シンボリュームの初期化 - SANtricity CLI	46
サポートされているアレイ	46
ロール	47
コンテキスト (Context)	47
構文	47
パラメータ	47
注：	48
最小ファームウェアレベル	49
ボリュームグループのデフラグを開始する - SANtricity CLI	49
サポートされているアレイ	49
ロール	50
コンテキスト (Context)	50
構文	50
パラメータ	50
注：	50
最小ファームウェアレベル	50
ボリュームグループのエクスポートを開始する - SANtricity CLI	50
サポートされているアレイ	50
ロール	50
コンテキスト (Context)	51
構文	51
パラメータ	51
注：	51
最小ファームウェアレベル	51

ボリュームグループのフルプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI	51
サポートされているアレイ	52
ロール	52
コンテキスト (Context)	52
構文	52
パラメータ	52
最小ファームウェアレベル	53
ボリュームグループのインポートを開始する - SANtricity CLI	53
サポートされているアレイ	53
ロール	53
コンテキスト (Context)	53
構文	53
パラメータ	54
注：	54
最小ファームウェアレベル	54
ボリュームグループの検索を開始する - SANtricity CLI	54
サポートされているアレイ	54
ロール	54
コンテキスト (Context)	54
構文	54
パラメータ	54
最小ファームウェアレベル	55
ボリュームグループリソースのプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI	55
サポートされているアレイ	55
ロール	55
コンテキスト (Context)	55
構文	55
パラメータ	55
最小ファームウェアレベル	56

開始...

非同期ミラーリング同期を開始する - SANtricity CLI

start asyncMirrorGroup synchronizeコマンドは'非同期ミラーリングの同期を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
start asyncMirrorGroup ["<em>asyncMirrorGroupName</em>"] synchronize  
[deleteRecoveryPointIfNecessary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	同期を開始する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は、二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（"）で囲みます。
「deleteRecoveryPointIfNecessary」です	リカバリ可能な同期データがリカバリの時間のしきい値を超えた場合にリカバリポイントを削除するためのパラメータ。リカバリポイントの経過時間は、プライマリストレージアレイでデータが取得された時間から計測されます。

最小ファームウェアレベル

7.84

8.10で、「deleteRecoveryPointIfNecessary」パラメータが追加されました。

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

整合性グループスナップショットのロールバックを開始する - SANtricity CLI

start cgSnapImage rollbackコマンドは'スナップショット・コンステンシ・グループのメンバー・ベース・ボリュームへのロールバック操作を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ベースボリュームの内容は、整合性グループのSnapshotボリュームの任意の時点の内容に合わせてすぐに変更されます。ロールバック処理が完了すると、ベースボリュームに対する読み取り/書き込み要求をすぐに実行できるようになります。

整合性グループのSnapshotボリュームに関連付けられているリポジトリボリュームは、ロールバック処理の完了後に発生するベースボリュームと整合性グループSnapshotボリューム間の新しい変更を引き続き追跡します。

メンバーベースボリュームへのロールバック処理を停止するには、「stop cgSnapImage rollback」コマンドを使用します。

構文

```
start cgSnapImage ["<em>snapCGID:imageID</em>"] rollback
memberVolumeSet ("<em>memberVolumeName1</em>" ...
"<em>memberVolumeNameN</em>")
```

パラメータ

パラメータ	説明
<p>「cgSnapImage」をクリックします</p>	<p>ロールバック処理を開始する整合性グループのSnapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Snapshotグループの名前 Snapshotグループ内のSnapshotイメージの識別子。 <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Snapshotグループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。 最新—スナップショットグループで作成された最新のスナップショットイメージを表示する場合にこのオプションを使用します oldest --スナップショットグループで作成された最も古いスナップショットイメージを表示する場合にこのオプションを使用します <p>Snapshotイメージ名は、二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。</p>
<p>「memberVolumeSet」をクリックします</p>	<p>整合性グループ内のロールバックするメンバー・ボリュームの名前。各メンバー・ボリューム名は、二重引用符（"）で囲んだ上で丸かっこで囲みます。</p> <p>ボリューム名は複数入力できます。すべてのボリューム名は一組の角かっこ（[]）で囲みます。各ボリューム名は二重引用符（"）で囲みます。ボリューム名はそれぞれスペースで区切ります。</p> <p>memberVolumeSet'パラメータが使用されない場合'ロールバック・プロセス環境 はコンステンシ・グループのすべてのメンバー・ボリュームを処理します</p>

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン（：）で区切られています。

- Snapshotグループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、CG1という名前の整合性グループ内にある最新のSnapshotイメージのロールバック処理を開始する場合は、次のコマンドを使用します。

```
start cgSnapImage ["CG1:newest"] rollback;
```

CG2という名前の整合性グループ内にあるベースボリュームメンバー memVol1、memVol2、memVol3 のSnapshotイメージ12345のロールバック処理を開始するには、次のコマンドを使用します。

```
start cgSnapImage ["CG2:12345"] rollback memberVolumeSet=("memVol1 memVol2  
memVol3");
```

最小ファームウェアレベル

7.83

ボリュームパリティチェックジョブの開始 - **SANtricity CLI**

。 start check volume parity job コマンドは、指定したボリュームで新しいボリュームパリティチェック処理を開始します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
start check volume[<volume_label>] parity job  
(startingLba=<start_lba> endingLba=<end_lba> scanPriority=<scan_priority>  
repairParityErrors=<true | false>  
repairMediaErrors=<true | false>);
```

パラメータ

パラメータ	説明
startingLba	パリティスキヤンを開始するボリュームの論理ブロックアドレス。デフォルト値はです 0。

パラメータ	説明
endingLba	パリティスキャンを停止するボリュームの論理ブロックアドレス。デフォルト値はです maximum volume lba。
scanPriority	パリティスキャンの優先順位。デフォルト値はです medium
repairParityErrors	パリティスキャン中に検出されたパリティエラーの修復を自動的に試行するかどうかを指定します。デフォルト値はです true。
repairMediaErrors	パリティスキャン中に検出されたメディアエラーの修復を自動的に試行するかどうかを指定します。デフォルト値はです true。

最小ファームウェアレベル

11.80

iSCSI DHCP 更新を開始する - SANtricity CLI

start controller iscsiHostPort dhcpRefreshコマンドはiSCSIインターフェースのDHCPパラメータの更新を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

インターフェイスの設定方法がDHCPに設定されていない場合、手順はエラーを返します。

構文

```
start controller [(a|b)] iscsiHostPort [portLabel] dhcpRefresh
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	iSCSIホストポートが搭載されたコントローラの識別子。有効なコントローラ識別子の値は'a'または'b'です。ここで'a'はスロットAのコントローラ'b'はスロットBのコントローラです
「iscsiHostPort」のように入力します	DHCPパラメータを更新するiSCSIホストポートのラベルまたは番号。 詳細については、次を参照してください。 "iSCSIホストポートラベルの識別"

iSCSIホストポートラベルの特定

ホストポートのラベルを指定する必要があります。ホストポートのラベルを指定する手順は、次のとおりです。

手順

1. iSCSIホスト・ポートのポート・ラベルがわからない場合は、「show controller」コマンドを実行します。
2. 結果のHost interfaceセクションで、選択するホストポートを特定します。



ポート・ラベルは'Port'フィールドに返される完全な値です

3. ポートラベルの値全体を引用符と角かっこで囲みます。["portLabel"]たとえば、ポートラベルが「Ch 2」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort[\"ch 2\"]
```



Windowsのコマンドラインを使用していて、ラベルにパイプ (|) が含まれている場合は、文字をエスケープする必要があります（{キャレット}を使用）。エスケープしない場合は、コマンドと解釈されます。たとえば、ポートラベルが「e0b|0b」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort[\"e0b^|0b\"]
```

下位互換性のために、引用符と角かっこではなく角かっこ[]で囲まれているiscsiPortNumberも、引き続きE2700、E5600、EF560の各コントローラ（およびEシリーズまたはEFシリーズの他の旧世代コントローラ）に使用できます。これらのコントローラでは、iscsiPortNumberの有効な値は次のとおりです。

- ホストポートが統合されたコントローラの場合、番号は3、4、5、または6です。
- ホストインターフェイスカード上にのみホストポートがあるコントローラの場合、番号は1、2、3、または4です。

以前の構文の例を次に示します。

```
iscsiHostPort [3]
```

注：

この処理を実行すると、ポータルのiSCSI接続が終了し、ポータルが一時的に停止します。

最小ファームウェアレベル

7.10

8.10で、iSCSIホストポートの番号付け方法が改定されました。

8.30で、E2800のiSCSIホストポートの識別方法が改定されました。

コントローラのトレースを開始する - **SANtricity CLI**

start controllerコマンドは'デバッグ・トレース情報を圧縮ファイルに保存するオペレーションを開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

デバッグトレース情報は、テクニカルサポートがストレージアレイの稼働状況を分析するために使用します。

構文

```
start controller [(a
| b
| both)] trace
dataType=(current | flushed | currentFlushed | all)
forceFlush=(TRUE | FALSE)
file=<em>fileName</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	トレースデバッグ情報を収集するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです「both」を入力すると、両方のコントローラのデバッグを同時に収集できます。コントローラの識別子は角かっこ ([]) で囲みます。コントローラを指定しないと、ストレージ管理ソフトウェアから構文エラーが返されます。
「データ型」	収集するデータのタイプ。 <ul style="list-style-type: none">現在のdqトレース—現在のdqトレースを取得しますflushed - フラッシュされたすべてのDQトレースcurrentFlushed --現在のDQトレースとフラッシュされたDQトレースの両方を取得しますall --現在のDQトレース、フラッシュされたDQトレース、およびすべてのプラットフォームDQトレース <p> 'datatype=flushed'および'forceFlush=True'の場合'取得時にバッファにフラッシュできるのはアクティブなトレースだけであることを示すエラーメッセージが返されます</p>

パラメータ	説明
「* forceFlush *」	<p>datatypeパラメータで定義されたDQトレース情報が取得されたときに、現在のバッファのDQ情報をフラッシュバッファに移動するための設定。強制的なフラッシュをイネーブルにするには、このパラメータを「true」に設定します。強制的なフラッシュを無効にするにはこのパラメータをFALSEに設定します</p> <p> 'datatype=flushed'および'forceFlush=True'の場合'取得時にバッファにフラッシュできるのはアクティブなトレースだけであることを示すエラーメッセージが返されます</p>
'file'	<p>DQトレース情報の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符（""）で囲みます。</p> <p>ファイルの命名方法については、「メモ」セクションを参照してください。</p>

注：

DQトレース情報は、.zip拡張子の付いた圧縮ファイルに書き込まれます。ファイル名は、ユーザ定義のファイル名とストレージアレイ識別子（SAID）を組み合わせたものです。末尾に「dq」も追加されます。完全なファイル名の形式は次のとおりです。

```
user_defined_file_name-SAID-dq.zip
```

圧縮ファイルに含まれる情報を次の表に示します。

ファイル名（File Name）	ディレクトリ	コメント
「user_provided_file_name - SAID - A.dq」という形式になります	「SAID /タイムスタンプ/	コントローラAから取得したDQトレースデータ
「user_provided_file_name -sSAID -bdq」という形式になります	「SAID /タイムスタンプ/	コントローラBから取得したDQトレースデータ
「user_provided_file_name -sSAID」 - 「trace_descriptionXM」	「SAID /タイムスタンプ/	将来のデータマイニングに使用する、DQファイルの属性が記述されたXML形式の概要ファイル。

最小ファームウェアレベル

ディスクプールのフルプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI

start diskPool fullProvisioningコマンドは'ディスク・プール内のすべてのボリュームでフル・プロビジョニング操作を開始し'オプションでディスク・プール上のリソース・プロビジョニングを無効にします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

リソースプロビジョニング機能を使用すると、ドライブブロックの大部分を標準ボリュームよりも未割り当ての状態にしておくことで、SSDの寿命が延び、書き込みパフォーマンスが向上します。リソースプロビジョニングボリュームは、SSDボリュームグループまたはプール内のシックボリュームで、ドライブ容量が割り当てられていますが（ボリュームに割り当てられて）、ボリュームの作成時にドライブブロックが割り当て解除（マッピング解除）されます。ドライブブロックは、ホスト書き込みIOを完了するために必要に応じて割り当てられます。ホストのマッピング解除処理によって、ドライブブロックを未割り当て状態に戻すことができます。リソースプロビジョニングでは、時間制限付きのバックグラウンド初期化が排除されるため、大容量のボリュームを迅速に初期化できます。

リソースプロビジョニングボリュームはSSDボリュームグループおよびプールでのみサポートされます。グループまたはプール内のすべてのドライブでNVMe Deallocated or Unwritten Logical Block Error Enable（DULBE）エラーリカバリ機能がサポートされます。パフォーマンスの向上はドライブのモデルや容量によって異なります。

完全なプロビジョニング形式では、ストレージプール内のボリュームに必要なすべてのブロックがドライブ上で完全にマッピングされます。このコマンドは、プロビジョニングされたリソースのストレージプールにのみ適用できます。disableResourceProvisioningオプションがFALSEに設定されていない場合でも'ボリュームはリソースプロビジョニングされ'ストレージプールに作成された新しいボリュームはリソースプロビジョニングされますリソース・プロビジョニングを無効にするオプションがtrueに設定されている場合'ボリュームはリソース・プロビジョニングされなくなり'ストレージ・プールに作成された新しいボリュームはリソース・プロビジョニングされません

構文

```
start diskPool [diskPoolName] fullProvisioning  
[disableResourceProvisioning=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	フルプロビジョニング処理を開始するディスクプール。ディスクプール名は角かっこで囲みます ([])。
disableResourceProvisioning	フルプロビジョニング処理の完了後にリソースプロビジョニングを無効にするかどうかを指定する設定。リソースプロビジョニングの無効化をスキップするには'これをFALSEに設定しますデフォルト値は「true」です。



ストレージ・プールおよび関連するすべてのボリュームでリソース・プロビジョニングを再度有効にするには' Start Disk Pool Resource Provisioning コマンドを使用します

最小ファームウェアレベル

11.72

ディスクプールの検索を開始する - **SANtricity CLI**

start diskPool locateコマンドは'ドライブ上のインジケータライトを点滅させることにより'指定されたディスク・プールを構成するために論理的にグループ化されたドライブを識別します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされいれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

(ドライブのインジケータライトをオフにするには'stop diskPool locateコマンドを使用します)

構文

```
start diskPool [<em>diskPoolName</em>] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	特定するディスクプールの名前。ディスクプール名は角かっこ ([]) で囲みます。ディスクプール名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ディスクプール名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.83

ディスクプールのリソースプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI

start diskPool resourceProvisioningコマンドを使用すると'所定のディスク・プールでリソース・プロビジョニングを有効にし'ディスク・プール内の各ボリュームで非同期オペレーションを実行するリソース・プロビジョニングを開始できますリソースをプロビジョニングするには、ディスクプール内のすべてのドライブがNVMeのDULBE機能をサポートしている必要があります。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ディスクプールでリソースのプロビジョニングを無効にするには、フルプロビジョニングコマンドとオプションを使用して、リソースのプロビジョニングを無効にします。すべてのドライブがDULBE対応で'ストレージアレイのresourceProvisionedVolumes設定が「true」の場合'ディスクプールは作成時にリソースをプロビジョニングします

構文

```
start diskPool [<em>diskPoolName</em>] resourceProvisioning
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diskPoolName」	リソースプロビジョニング機能を有効にするディスクプール。ディスクプール名は角かっこ ([]) で囲みます。

最小ファームウェアレベル

11.73

ドライブ消去の開始 - SANtricity CLI

start drive eraseコマンドを実行すると、1つまたは複数のドライブからすべてのデータが消去されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のアレイに適用されます。E2700およびE5600のストレージアレイでは動作しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ドライブ上のすべてのデータを完全に削除する場合にのみ実行してください。ドライブがセキュリティ有効の場合、start drive eraseコマンドオプションは暗号化消去を実行し、ドライブのセキュリティ属性をセキュア対応にリセットします。



消去操作は元に戻せません。このコマンドを使用するときは、正しいドライブを選択していることを確認してください。

構文

```
start (drive [trayID, [drawerID,] slotID] |  
drives[trayID1, [drawerID1,] slotID1 ... trayIDn, [drawerIDn,] slotIDn]) erase
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p> <p> drivesリストにストレージアレイのすべてのドライブを指定するとコマンドが拒否されます。</p>

最小ファームウェアレベル

11.70.1

ドライブの初期化を開始する - **SANtricity CLI**

start drive initializeコマンドはドライブの初期化を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ストレージ・アレイ構成への損傷の可能性--このコマンドを入力するとすべてのユーザー・データが破棄されます

構文

```
start drive [<em>trayID</em>, [<em>drawerID</em>, ]<em>slotID</em>]  
initialize
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします'大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID) 、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

6.10

7.60で'drawerID'ユーザ入力が追加されました

ドライブの検索を開始する - **SANtricity CLI**

start drive locateコマンドは'ドライブのインジケータライトを点灯させることでドライブを特定します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ドライブのインジケータライトをオフにするには'stop drive locate'コマンドを実行します

構文

```
start drive [<em>trayID</em>, [<em>drawerID</em>, ]<em>slotID</em>] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします'大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID) 、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

6.10

7.60で'drawerID'ユーザ入力が追加されました

ドライブ再構築の開始 - SANtricity CLI

start drive reconstructコマンドは'ドライブの再構築を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
start drive [<em>trayID</em>, [<em>drawerID</em>, ]<em>slotID</em>]  
reconstruct
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。</p>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID) 、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

5.43

7.60で'drawerID'ユーザ入力が追加されました

ドライブチャネル障害分離診断の開始 - SANtricity CLI

start driveChannel faultDiagnosticsコマンドは'ドライブチャネルの障害切り分け診断を実行し'結果を保存します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ファームウェアバージョン8.10では、start driveChannel faultDiagnosticsコマンドは廃止されました。

構文

```

start driveChannel [(1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8)]
controller [(a|b)] faultDiagnostics
testDevices=[all |
controller=(a|b) |
esms=[<em>trayID1</em> (left | right), ... , <em>trayIDN</em> (left |
right)] |
drives[<em>trayID1</em>, [<em>drawerID1</em>,]<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>, [<em>drawerIDn</em>,]<em>slotIDn</em>]
|[dataPattern=(fixed | pseudoRandom) |
patternNumber=[(<em>0xhexadecimal</em> | <em>number</em>)] |
maxErrorCount=<em>integer</em> |
testIterations=<em>integer</em> |
timeout=<em>timeInterval</em>]

```

パラメータ

パラメータ	説明
driveChannel	特定するドライブチャネルの識別番号。ドライブ・チャネルの有効な識別番号は'1"2'3'4"5"です '6'7'または'8` ドライブチャネルの識別番号は角かっこ ([]) で囲みます。
「controller」と入力します	テストするコントローラの識別子。有効なコントローラ識別子の値は'a'またはb'でここで'a'はスロットAのコントローラ'b'はスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ ([]) で囲みます。

パラメータ	説明
「testDevices」	<p>テストするデバイス（コントローラ、環境サービスモジュール[ESM]、またはドライブ）の識別子。「all」を指定するか、診断するデバイスの特定の識別子を入力します。「controller」の識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのRAIDコントローラモジュール、「b」はスロットBのRAIDコントローラモジュールです</p> <p>ESMS'識別子はトレイIDと左または右ですトレイIDは0～99の値で'左または右は背面からドライブトレイを見るときに決定されます</p> <p>'drive'識別子には'トレイ識別子'トレイにドロワーがある場合のドロワー識別子'スロット識別子が含まれます</p> <p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>
「dataPattern」	テストする再現性の方法。
「patternNumber」と入力します	テストの実行に使用する16進数のデータパターン。この数は'0000'から'FFFF'までの任意の16進数にすることができます16進数値を示すためには'0x'を前面に配置する必要があります
'maxErrorCount'	テストを終了するまでに許容するエラーの数。
「testIterations」	テストを繰り返す回数。
タイムアウト	テストを実行する時間（分）。

注：

テストするデバイスのタイプを複数入力したり、実行するテストのタイプを複数入力したりできます。

「start driveChannel faultDiagnostics」コマンドと「stop driveChannel faultDiagnostics」コマンドを「start driveChannel faultDiagnostics」コマンドとともに使用します。これらのコマンドは、診断テストの結果をファイルに保存し、診断テストを停止するために必要です。

有効な「patternNumber」エントリの例としては、「0xA5A5」、「0x3C3C」、「8787」、「1234」などがあります。

このコマンドは'Ctrl + Cキーを押すといつでも停止できます

最小ファームウェアレベル

7.15

ドライブチャネルの検索を開始する - **SANtricity CLI**

start driveChannel locateコマンドは'特定のドライブチャネルに接続されているドライブトレイのインジケータライトを点灯することによって'そのドライブトレイを識別します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

ドライブトレイのインジケータライトをオフにするには'stop driveChannel locateコマンドを使用します

構文

```
start driveChannel [(1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8)] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
driveChannel	特定するドライブチャネルの識別番号。ドライブ・チャネルの有効な識別番号は'1"2'3'4"5"です '6'7'または'8` ドライブチャネルの識別番号は角かっこ ([]) で囲みます。

最小ファームウェアレベル

6.10

7.15で、ドライブチャネル識別子の更新が追加されました。

テストメールアラート設定 - **SANtricity CLI**

「start emailAlert test」 コマンドを使用すると、サンプルの電子メールメッセージを送信して、アラート設定をテストできます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
start emailAlert test
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "start emailAlert test;"
```

```
The sample alert message was successfully sent to the email addresses.
```

```
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ディスクプールまたはボリュームグループ内のボリュームの容量を増やす - SANtricity CLI

start increaseVolumeCapacity volumeコマンドは'ディスク・プールまたはボリューム・グループ内の標準ボリュームまたはリポジトリ・ボリュームの容量を拡張します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドでは、標準ボリュームはシックボリュームとも呼ばれます。



このコマンドを使用してシンボリュームの容量を拡張することはできません。

構文

```
start increaseVolumeCapacity volume="volumeName"  
incrementalCapacity="volumeCapacity"  
[addDrives=(trayID1, [drawerID1, ]slotID1 ...  
  trayIDn, [drawerIDn, ]slotIDn)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	容量を拡張するディスクプールまたはボリュームグループ内のボリュームの名前。ボリューム名は二重引用符（"）で囲みます。
「増分容量」	ボリュームのストレージサイズ（容量）を拡張するための設定。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されますデフォルト値は「bytes」です。

パラメータ	説明
「addDrives」を参照してください	<p>ボリュームに新しいドライブを追加するための設定。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p> <p> 「addDrives」パラメータは、ボリュームグループの容量を増やす場合にのみ使用できます。パラメータを使用してディスクプールの容量を拡張することはできません。</p>

注：

場合によっては'drive'パラメータがコマンド構文の有効な入力として表示されることがありますただし'このコマンドでは'drive'パラメータを使用できません

「incrementalCapacity」パラメータを設定すると、長時間実行される処理が開始され、途中で停止することはできません。長時間の処理はバックグラウンドで実行され、他のコマンドの実行が妨げられることはあります。長時間実行中の処理の進捗状況を表示するには、「show volume actionProgress」コマンドを使用します。

'addDrives'パラメータは'大容量ドライブ・トレイと小容量ドライブ・トレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID) 、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

7.83

入出力コントローラ (IOC) ダンプの開始 - SANtricity CLI

start IOCLogコマンドは、ホストとコントローラ間のデータ送信のIOCログをダンプします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

コントローラは「a」または「b」として識別されます。各コントローラには最大4つのホストチャネルを設定でき、各チャネルは1~8の番号で一意に識別されます。

構文

```
start IOCLog [(a1 | a2 | a3 | a4 | a5 | a6 | a7 | a8 | b1 | b2 | b3 | b4 |  
b5 | b6 | b7 | b8)]  
[overwrite=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「コントローラチャネル識別子」	<p>このパラメータは、IOCダンプの作成元となるコントローラとホストチャネルを指定します。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですホストチャネルは数値で識別されます。コントローラとホストチャネルの識別子は角かっこ(())で囲みます。</p> <p>有効なコントローラ識別子とホストチャネルの値はa1、a2、a3 a4 a5、a6 a7、a8、b1、b2 b3 b4、b5、b6、b7、b8または。</p> <p>コントローラを指定しないと、ストレージ管理ソフトウェアから構文エラーが返されます。</p>

パラメータ	説明
「上書き」	このパラメータを使用すると、新しいIOCログダンプで既存のダンプが上書きされます。既存のダンプを上書きするには'このパラメータをTRUEに設定します' デフォルト値は'FALSE'です

注：

このコマンドは、選択したコントローラのIOCからデバッグログを生成し、コントローラ上の永続的メモリバッファにデータを圧縮して格納します。save IOCLogコマンドを使用すると、デバッグログからデータを取得できます。コントローラから次の状況のエラーが返されます。

- ・コントローラプラットフォームとHICがIOCダンプをサポートしていない。
- ・指定したコントローラに未処理のIOCダンプがあり、overwriteパラメータがfalseに設定されている。
- ・指定したコントローラ識別子またはチャネル識別子が有効な範囲外です。

最小ファームウェアレベル

8.20で

FDEセキュアドライブ消去を開始する - SANtricity CLI

start secureErase driveコマンドは'1つまたは複数のFull Disk Encryption (FDE) ドライブからすべてのデータを消去して'FDEドライブとして再利用できるようにします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、FDEドライブがセキュアなボリュームグループまたはディスクプールのメンバーでなくなった場合、またはセキュリティキーが不明な場合にのみ実行します。



ドライブがロックされていて、そのドライブのロックを解除するためのセキュリティキーが使用できないときにFIPSドライブを消去するには、「set drive securityID」コマンドを使用します。

構文

```
[start secureErase (drive
[<em>trayID</em>, [<em>drawerID</em>, ]<em>slotID</em>] | drives
[<em>trayID1</em>, [<em>drawerID1</em>, ]<em>slotID1</em> ... 
<em>trayIDn</em>, [<em>drawerIDn</em>, ]<em>slotIDn</em>])
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p> <p> drivesリストにストレージアレイのすべてのドライブを指定するとコマンドが拒否されます。すべてのドライブを完全消去するには、ドライブのリストを2つのグループに分けて指定し、このコマンドを2回実行します。</p>

注：

コントローラファームウェアによってロックが作成され、FDEドライブへのアクセスが制限されます。FDEドライブには、Security Capableという状態があります。セキュリティキーを作成すると、状態はSecurity Enabledに設定され、これによって、ストレージアレイ内に存在するすべてのFDEドライブへのアクセスが制限されます。

最小ファームウェアレベル

7.40

スナップショットイメージのロールバックを開始する - **SANtricity CLI**

start snapImage rollbackコマンドは'スナップショット・イメージ・セットのロールバック・オペレーションを開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ベースボリュームの内容は、選択したSnapshotイメージボリュームの任意の時点の内容に合わせてすぐに変更されます。ロールバック処理が完了すると、ベースボリュームに対する読み取り/書き込み要求をすぐに実行できるようになります。スナップショット・イメージのロールバック操作を停止するには'stop rollback SnapImageコマンドを使用します

Snapshotイメージに関連付けられているリポジトリボリュームは、ロールバック処理の完了後に発生するベースボリュームとSnapshotイメージボリューム間の新しい変更を引き続き追跡します。



オンラインボリュームコピーに関するSnapshotイメージには、このコマンドは使用できません。

構文

```
start snapImage [ "<em>snapImageName</em>" ] rollback
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapImage」	<p>Snapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Snapshotグループの名前 Snapshotグループ内のSnapshotイメージの識別子 <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Snapshotグループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。 最新一スナップショットグループで作成された最新のスナップショットイメージを表示する場合にこのオプションを使用します oldest --スナップショットグループで作成された最も古いスナップショットイメージを表示する場合にこのオプションを使用します <p>Snapshotイメージ名は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。</p>

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン（：）で区切られています。

- Snapshotグループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、SnapshotグループsnapGroup1内のSnapshotイメージ12345をロールバックする場合は、次のコマンドを使用します。

```
start snapImage ["snapGroup1:12345"] rollback;
```

SnapshotグループsnapGroup1内の最も新しいSnapshotイメージをロールバックするには、次のコマンドを使用します。

```
start snapImage ["snapGroup1:newest"] rollback;
```

最小ファームウェアレベル

7.83

SNMPトラップの送信先をテストする - SANtricity CLI

start snmpTrapDestinationコマンドは、特定の簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)コミュニティまたはユーザのトラッププレシーバーの接続と識別をテストします。このコマンドは、トラッププレシーバーにトラップメッセージを送信することによって、トラップの送信先をテストします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
start snmpTrapDestination trapReceiverIP=ipAddress
  (communityName="communityName" |
  (userName="userName" [engineId=(local | engineId)]))
```

パラメータ

パラメータ	説明
「trapReceiverIP」と入力します	トラップメッセージの送信先であるSNMPマネージャのIPアドレス。
「CommunityName」の略	トラップメッセージを送信するSNMPコミュニティの名前。
「ユーザ名」	トラップメッセージを送信するSNMPユーザの名前。
「engineID」	トラップメッセージを送信するSNMPユーザのエンジンID。同じユーザ名を使用するUSMユーザが複数ある場合は、エンジンIDが必要です。ローカルSNMPエージェントを指定する値は「local」です。ローカルSNMPエージェントは権限のあるエージェントで、16進数の数字で、リモートSNMPエージェントエンジンIDを指定します。

最小ファームウェアレベル

8.30

SSD キャッシュの検索を開始する - SANtricity CLI

start ssdCache locateコマンドは'SSDのインジケータライトを点滅させることにより'論理的にグループ化されたソリッド・ステート・ディスク (SSD) を識別します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ドライブのインジケータライトをオフにするには'stop ssdCache locateコマンドを使用します

構文

```
start ssdCache [<em>ssdCacheName</em>] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	特定するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角かっこ ([]) で囲みます。SSDキャッシュ名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

SSD キャッシュ パフォーマンス モデリングを開始する - SANtricity CLI

start ssdCache performanceModelingコマンドはSSDキャッシュのパフォーマンスマデリングを開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

パフォーマンスマデリングは、一定期間のI/Oアクティビティを監視および測定し、さまざまなSSDキャッシュサイズのパフォーマンスを予測します。パフォーマンスは、キャッシュヒット率と平均応答時間の2つの指標を使用して推定されます。パフォーマンスマデリングデータはstop ssdCache performanceModelingコマンドを使用してオペレーションを停止するまで使用できません

構文

```
start ssdCache [<em>ssdCacheName</em>] performanceModeling
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	パフォーマンスをモデリングするSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角かっこ（[]）で囲みます。SSDキャッシュ名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

注：

パフォーマンスマデリングが終了し、以下のいずれかの条件に該当する場合にパフォーマンスマデリングデータを使用できるようになりました。

- 「stop ssdCache performanceModeling」コマンドを実行します。
- ストレージ管理ソフトウェアを使用してパフォーマンスマデリングデータを取得する。

パフォーマンスマデリングが終了しても、次のいずれかの条件に該当する場合はデータを使用できません。

- ・コントローラをリブートした。
- ・SSDキャッシュ設定に変更を加えた。
- ・SSDキャッシュの状態が変化した。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

AutoSupport 配信設定のテスト - SANtricity CLI

start storageArray AutoSupport deliveryTestコマンドは、サンプルのAutoSupport バンドル収集メッセージを送信し、指定された配信パラメータを使用してデスティネーションテクニカルサポートシステムへの接続をテストできるようにします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
start storageArray autoSupport deliveryTest
[replyToEmail="address"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「replyToEmail」	AutoSupport テストメッセージの返信先のEメールアドレスを指定できます。配信方法がEメールに設定されている場合にのみ使用/必須です。

例

```
SMcli -n Array1 -c "start storageArray autoSupport deliveryTest;"  
  
SMcli -n Array1 -c "start storageArray autoSupport deliveryTest  
replyToEmail=\\"user@company.com\\";"  
  
The sample AutoSupport message was successfully sent to the ASUP gateway  
server.  
  
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージアレイの **AutoSupport** 手動ディスパッチの開始 - **SANtricity CLI**

start storageArray asemanualDispatch' AutoSupport コマンドは、バンドルの完全なサポートバンドルとASUPディスパッチを開始します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

完了までの時間が長いため、プロセスが開始されるとコマンドは成功を返します。

構文

```
start storageArray autoSupport manualDispatch
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.63

ストレージアレイ構成データベース診断を開始する - **SANtricity CLI**

start storageArray configDbDiagnosticコマンドは'構成データベースに対して整合性チェックを実行します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
start storageArray configDbDiagnostic
[sourceLocation=(disk | onboard) |
 diagnosticType=(fileSystem | mirror) |
 controller[(a|b)]]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「sourceLocation」と入力します	<p>このパラメータは、データベースの場所を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">「disk」は、ドライブ上のデータベースから直接データが取得されることを示します「onboard」は、RPAメモリ上の場所からデータを取得することを示します <p>デフォルトの場所は「disk」です。</p>

パラメータ	説明
'diagnosticType'	<p>データベースで実行する診断テストのレベル。次のいずれかのレベルのテストを実行できます。</p> <p>'filesystem' --このオプションは'データベースの構造的な整合性をチェックします</p> <p>mirror --このオプションを使用して実行されるテストは'sourceLocation'パラメータの値によって異なります</p> <ul style="list-style-type: none"> 「* sourceLocation *」パラメータが「disk」に設定されている場合、ピア・コントローラはブロック・チェックを開始します。 「* sourceLocation *」パラメータが「onboard」に設定されている場合、ピア・コントローラはコード・チェックを開始します。 <p> 「mirror」オプションは、コマンドラインまたはスクリプトエディタからのみ実行できます。このオプションは、ストレージ管理ソフトウェアのGUIからは使用できません。mirrorオプションを指定すると'長時間実行される処理が開始され'停止することはできません</p> <p>デフォルト値は「filesystem」です。</p>
「controller」と入力します	診断テストを実行するデータベースが格納されているコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ ([]) で囲みます。

注：

このコマンドは、構成データベースに対して整合性チェックを実行します。すべてのデータベースレコードがチェックされます。エラーデータは、ディスク上のデータフォルダ内のファイルに自動的に書き込まれます。出力ファイルを指定する必要はありません。



diagnosticType'パラメータをmirrorに設定し'sourceLocation'パラメータをonboardに設定して整合性チェックを実行する原因と'操作を長時間実行できますこれにより、ホストのI/O処理に悪影響が及ぶ可能性があります。この処理は、サポート部門から指示があった場合にのみ実行してください。

診断テストが完了すると、コントローラファームウェアは次のいずれかの結果を返します。

- 「診断はエラーなしで完了しました。ZIPファイルが作成されていません

- ・「診断がエラーで終了しました。作成されたZIPファイルを参照してください

```
'+...\Install_dir\data\FirmwareUpgradeReports\timestamp_buildNo.zip +`
```

構成データベースの不整合が検出された場合、コントローラファームウェアは次の処理を実行します。

- ・不整合の概要を返します
- ・バイナリデータをZIPファイルに保存します

ZIPファイルは次の場所に保存されます。

```
'+...\Install_dir\data\FirmwareUpgradeReports\timestamp_buildNo.zip +`
```

このバイナリデータを使用して問題の原因を特定したり、バイナリデータを格納しているファイルをテクニカルサポートに送信したりできます。

データベース設定診断テストを停止するには、「stop storageArray configDbDiagnostic」コマンドを使用します。

また、ストレージ管理ソフトウェアのGUIからデータベース構成の診断テストを開始することもできます。ただし、ストレージ管理ソフトウェアのGUIから診断テストを停止することはできません。実行中の診断テストを停止するには'stop storageArray configDbDiagnostic'コマンドを使用する必要があります

最小ファームウェアレベル

7.75

7.83で、次のパラメータが追加されました

- ・「sourceLocation」と入力します
- ・'diagnosticType'
- ・「controller」と入力します

ストレージアレイコントローラのヘルスイメージの開始 - **SANtricity CLI**

start storageArray controllerHealthImage controllerコマンドは、コントローラヘルスイメージ機能をサポートするストレージアレイで、ストレージアレイコントローラヘルスイメージを作成します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するに

は、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ファームウェア・バージョン8.20で'coredump'パラメータは'controllerHealthImage'パラメータに置き換えられました



このコマンドは、必ずテクニカルサポートの指示に従って使用してください。

ストレージアレイがコントローラヘルスイメージ機能をサポートしていない場合、コマンドはエラーを返します。

構文

```
start storageArray controllerHealthImage controller [(a|b)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	このパラメータは、コントローラのヘルスイメージの作成元のコントローラを指定します。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ ([]) で囲みます。コントローラを指定しないと、ストレージ管理ソフトウェアから構文エラーが返されます。

注：

このコマンドは、選択したコントローラのコアデータを強制的にキャッシュにダンプします。キャッシュデータのコピーをホストファイルに保存するには、「save storageArray controllerHealthImage」コマンドを使用します。

最小ファームウェアレベル

7.83

8.20で'coredump'パラメータが'controllerHealthImage'パラメータに置き換えられました

ストレージアレイディレクトリサーバーのテスト - **SANtricity CLI**

start storageArray DirectoryServices testコマンドは、設定されているすべてのディレクトリサーバとの通信をチェックし、サーバドメイン設定を検証します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ディレクトリサーバがドメインに1つも追加されていない場合にエラーを返します。

構文

```
start storageArray directoryServices test
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "start storageArray directoryServices test;"  
<test results for each domain configured are returned>  
SMcli completed successfully.
```

外部キー管理通信のテスト - SANtricity CLI

start storageArray externalKeyManagement testコマンドは、設定されたクレデンシャル（証明書、KMIPサーバのアドレス、KMIPポート番号）を使用して、ストレージアレイが外部KMIPサーバと通信できるかどうかを確認します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドは、外部キー管理にのみ適用されます。

構文

```
start storageArray externalKeyManagement test
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージアレイの iSNS サーバーの更新を開始する - SANtricity CLI

start storageArray isnsServerRefreshコマンドは、iSNSサーバのネットワークアドレス情報の更新を開始します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

DHCPサーバが非常に低速であるか応答しない場合は、更新処理に2~3分かかる可能性があります。



このコマンドはIPv4専用です。

構文

```
start storageArray isnsServerRefresh
```

パラメータ

なし

注：

set storageArray isnsIPv4ConfigurationMethodコマンドを使用して設定をDHCPに設定していない場合、「start storageArray isnsServerRefresh」を実行するとエラーが返されます。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージアレイの検索を開始する - **SANtricity CLI**

start storageArray locateコマンドは'ストレージ・アレイのインジケータ・ライトをオンにすることによって'ストレージ・アレイを検索します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

ストレージ・アレイのインジケータ・ライトをオフにするには'stop storageArray locateコマンドを使用します

構文

```
start storageArray locate
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

OCSP サーバー URL テストを開始する - SANtricity CLI

start storageArray ocspResponderUrl testコマンドは、Online Certificate Status Protocol (OCSP) サーバの指定したURLへの接続が開いているかどうかをチェックします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

パラメータ

パラメータ	説明
「URL」	OCSPサーバURLのリテラル文字列。  URLを指定しない場合、証明書失効の設定にあるOCSPレスポンダURLが使用されます。

構文

```
start storageArray ocspResponderUrl test (url=stringLiteral)
```

最小ファームウェアレベル

8.42

ストレージアレイのSyslogテストを開始する - SANtricity CLI

start storageArray syslog testコマンドを使用すると、ストレージアレイとsyslogサーバ間の通信をテストできます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
start storageArray syslog test id=""
```

パラメータ

パラメータ	説明
ID	テストするsyslog設定ID。このIDは、「show storageArray syslog」コマンドを使用して取得できます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "start storageArray syslog test
id=\"331998fe-3154-4489-b773-b0bb60c6b48e\";"
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.42

同期ミラーリング同期の開始 - **SANtricity CLI**

start SyncMirror primary synchronizeコマンドは、同期ミラーリングの同期を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなり' SyncMirror に置き換えられます

構文

```
start syncMirror primary ["<em>volumeName</em>"] synchronize
```

パラメータ

パラメータ	説明
「プライマリ」	同期を開始するプライマリボリュームの名前。プライマリボリューム名は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。

最小ファームウェアレベル

6.10

Syslog 構成のテスト - SANtricity CLI

start syslog testコマンドは、サンプルメッセージを送信して、syslog設定をテストします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
start syslog test
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "start syslog test;"  
  
The sample alert message was successfully sent to the syslog servers.  
  
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

トレイの位置特定を開始する - **SANtricity CLI**

start tray locateコマンドは'インジケータライトをオンにしてトレイを検索します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

トレイのインジケータライトをオフにするには'stop tray locateコマンドを使用します

構文

```
start tray [<em>trayID</em>] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
「tray」	特定するトレイ。トレイIDの値は'0~99ですトレイIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。

最小ファームウェアレベル

6.10

ボリュームの初期化を開始する - SANtricity CLI

start volume initializeコマンドは'ストレージ・アレイ内のボリュームのフォーマットを開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ボリュームのフォーマットは長時間の処理で、途中で停止することはできません。

構文

```
start volume [<em>volumeName</em>] initialize
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	フォーマットするボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

6.10

シンボリュームの初期化 - SANtricity CLI

start volume initialize'コマンドは'シン・ボリュームを初期化または再初期化します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

使用するパラメータに応じて操作が異なります。

- オプションパラメータなしでこのコマンドを使用すると、シンボリューム上のデータが削除されます。リポジトリボリュームの容量には影響しません。
- オプションのパラメータを指定して、原因の再初期化およびリポジトリボリュームの操作を実行します。



シンボリュームの初期化は長時間の処理で、途中で停止することはできません。

構文

```
start volume [<em>volumeName</em>] initialize
[existingRepositoryLabel=<em>existingRepositoryName</em>]
[diskPool=<em>diskPoolName</em> capacity=<em>capacityValue</em>]
[retainRepositoryMembers=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	初期化を開始するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
'existingRepositoryLabel'です	<p>このパラメータは、リポジトリボリュームを指定したボリュームの候補で置き換えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定する値は、既存のリポジトリボリュームのユーザラベルです。指定するボリュームは、適切な形式の名前を持つ未使用のリポジトリボリュームである必要があります。 新しく指定したリポジトリボリュームが別のディスクプール上にある場合、シンボリュームはそのプールに所有権を移します。 デフォルトでは、古いリポジトリボリュームは削除されます。 <p>既存のリポジトリボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ボリューム名を二重引用符（"）で囲む必要があります。</p>
「diskPool」	<p>指定した容量を持つ新しいリポジトリボリュームを作成するディスクプールの名前。ディスクプール名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ディスクプール名を二重引用符（"）で囲む必要があります。</p> <p>指定した容量を持つ新しいリポジトリ・ボリュームを作成するには'このパラメータをcapacityパラメータとともに使用する必要があります</p>
「容量」	<p>作成するリポジトリボリュームに設定するサイズ。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます</p> <p>最小物理容量は4GBです。</p> <p>最大物理容量は257TBです。</p> <p>指定した容量を持つ新しいリポジトリ・ボリュームを作成するには'diskPool'パラメータとともにこのパラメータを使用する必要があります</p>
retainRepositoryMembers	このパラメータがTRUEに設定されている場合'古いリポジトリは保持されますデフォルトでは、古いリポジトリは削除されます。既存のリポジトリが再利用される場合、このパラメータは無視されます。

注：

volumeパラメータでボリュームを指定しない場合'このコマンドはリポジトリ内のメタデータをリセットし'実際には'ホストに対してシン・ボリュームが空であると表示されます'* volume *' パラメータでボリュームを指定した場合、そのボリュームは新しく作成されたボリュームに置き換えられま

す。「existingRepositoryLabel」パラメータを使用してボリュームを指定した場合は、既存のボリュームに置き換えられます。別のディスク・プールにある既存のボリュームを'existingRepositoryLabel'パラメータで指定すると'シン・ボリュームは新しいディスク・プールに所有権を変更します

仮想容量、クオータ、警告しきい値など、シンボリュームのボリュームパラメータは、シンボリュームの再初期化後も以前の値のままでです。



Immediate Availability Format (IAF) は、64TBを超えるボリュームには適用されません。

次の表に、シンボリュームの容量制限を示します。

容量のタイプ	サイズ
最小仮想容量	32 MB
最大仮想容量	256 TB
最小物理容量	4 GB
最大物理容量	257TB

シンボリュームでは、標準ボリュームで行われるすべての処理がサポートされます。ただし、次の例外があります。

- ・シンボリュームのセグメントサイズは変更できません。
- ・シンボリュームでは読み取り前冗長性チェックを有効にできません。
- ・ボリュームコピーでは、シンボリュームをターゲットボリュームとして使用できません。
- ・同期ミラーリング処理ではシンボリュームを使用できません。

シンボリュームを標準ボリュームに変更する場合は、ボリュームコピー処理を使用してシンボリュームのコピーを作成します。ボリュームコピーのターゲットは常に標準ボリュームです。

最小ファームウェアレベル

7.83

8.30で、シンボリュームの最大容量が256TBに拡張されました。

ボリュームグループのデフラグを開始する - **SANtricity CLI**

`start volumeGroup defr``コマンドは'指定したボリュームグループ上でデフラグ操作を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ボリュームグループのデフラグは長時間の処理で、途中で停止することはできません。

構文

```
start volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] defragment
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	デフラグするボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。

注：

ボリュームグループ内のボリューム数が32を超えると、ホストI/Oエラーが発生する可能性があります。また、ボリュームグループ定義が設定される前にタイムアウト時間が終了したために、内部コントローラのリブートが発生する場合もあります。この問題が表示された場合は、ホストI/O処理を休止し、もう一度コマンドを実行します。

最小ファームウェアレベル

6.10

ボリュームグループのエクスポートを開始する - SANtricity CLI

start volumeGroup exportコマンドはボリューム・グループをエクスポート状態に移行します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

その後、ボリュームグループを構成するドライブを取り外して、別のストレージアレイに再度取り付けることができます。



これらの手順を実行する前に、に記載されている手順を実行してください [ボリュームグループの移行について説明します。](#)



ボリュームグループ内では、機能に関連付けられているボリュームをストレージアレイ間で移動することはできません。

構文

```
start volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] export
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	エクスポートするボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。

注：

このコマンドが正常に実行されると'start volumeGroup importコマンドを実行して'ボリューム・グループの完全な状態への移動を完了できますこれにより'ボリューム・グループを新しいストレージ・アレイで使用できるようになります

ハードウェアの問題によってエクスポートが完了できなかったためにこのコマンドが失敗した場合は、「set volumeGroup forceState」コマンドを使用します。set volumeGroup forceStateコマンドを使用すると'start volumeGroup importコマンドを使用してボリュームグループをインポートできます

ボリュームグループがエクスポート状態または強制状態になったら、ボリュームグループを構成するドライブをストレージアレイから取り外すことができます。ドライブを別のストレージアレイに再度取り付けることができます。

最小ファームウェアレベル

7.10

ボリュームグループのフルプロビジョニングを開始する - **SANtricity CLI**

start volumeGroup fullProvisioningコマンドは'ディスク・プール内のすべてのボリュームに対してフル・プロビジョニング操作を開始し'オプションでボリューム・グループ上のリソース・プロビジョニングを無効にします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

リソースプロビジョニング機能を使用すると、ドライブブロックの大部分を標準ボリュームよりも未割り当ての状態にしておくことで、SSDの寿命が延び、書き込みパフォーマンスが向上します。リソースプロビジョニングボリュームは、SSDボリュームグループまたはプール内のシックボリュームで、ドライブ容量が割り当てられていますが（ボリュームに割り当てられて）、ボリュームの作成時にドライブブロックが割り当て解除（マッピング解除）されます。ドライブブロックは、ホスト書き込みIOを完了するために必要に応じて割り当てられます。ホストのマッピング解除処理によって、ドライブブロックを未割り当て状態に戻すことができます。リソースプロビジョニングでは、時間制限付きのバックグラウンド初期化が排除されるため、大容量のボリュームを迅速に初期化できます。

リソースプロビジョニングボリュームはSSDボリュームグループおよびプールでのみサポートされます。グループまたはプール内のすべてのドライブでNVMe Deallocated or Unwritten Logical Block Error Enable (DULBE) エラーリカバリ機能がサポートされます。パフォーマンスの向上はドライブのモデルや容量によって異なります。

完全なプロビジョニング形式では、ボリュームグループ内のボリュームに必要なすべてのブロックがドライブ上で完全にマッピングされます。このコマンドは、プロビジョニングされたリソースボリュームグループにのみ適用できます。disableResourceProvisioningオプションがFALSEに設定されていない場合でも'ボリュームはリソースプロビジョニングされ'ボリュームグループ上に作成された新しいボリュームはリソースプロビジョニングされますリソース・プロビジョニングを無効にするオプションがtrueに設定されている場合'ボリュームはリソース・プロビジョニングされなくなり'ボリューム・グループに作成された新しいボリュームはリソース・プロビジョニングされません

構文

```
start volumeGroup[volumeGroupName] fullProvisioning  
[disableResourceProvisioning=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	フルプロビジョニング処理を開始するボリュームグループ。ボリュームグループ名は角っこで囲みます ([])。

パラメータ	説明
disableResourceProvisioning	<p>フルプロビジョニング処理の完了後にリソースプロビジョニングを無効にするかどうかを指定する設定。リソースプロビジョニングの無効化をスキップするには'これをFALSEに設定しますデフォルト値は「true」です。</p> <p> ボリューム・グループおよび関連するすべてのボリュームでリソース・プロビジョニングを再度有効にするには'Start Volume Group Resource Provisioning'コマンドを使用します</p>

最小ファームウェアレベル

11.72

ボリュームグループのインポートを開始する - **SANtricity CLI**

start volumeGroup importコマンドは'ボリューム・グループを完了状態に移行して'新しく導入したボリューム・グループを新しいストレージ・アレイで使用できるようにします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドを実行するには、ボリュームグループがエクスポート状態または強制状態である必要があります。コマンドが正常に実行されると、ボリュームグループを使用できるようになります。



ボリュームグループ内では、機能に関連付けられているボリュームをストレージアレイ間で移動することはできません。

構文

```
start volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] import
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	インポートするボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。

注：

特定の機能（同期ミラーリング、ボリュームコピー、マッピング、永続的予約）に関連する上位のボリュームは、インポート処理から除外されます。

start volumeGroup importコマンドを実行する前に'show volumeGroup importDependenciesコマンドを実行する必要があります

最小ファームウェアレベル

7.10

ボリュームグループの検索を開始する - **SANtricity CLI**

start volumegroup locateコマンドは'ドライブ上のインジケータライトを点滅させることにより'指定したボリュームグループを構成するために論理的にグループ化されたドライブを特定します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

ドライブのインジケータライトをオフにするには'stop volumegroup locateコマンドを使用します

構文

```
start volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	特定するドライブが所属するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。

最小ファームウェアレベル

6.16

ボリュームグループリソースのプロビジョニングを開始する - **SANtricity CLI**

start volumeGroup resourceProvisioningコマンドは'指定されたボリュームグループでリソースプロビジョニングを有効にし'ボリュームグループ内の各ボリュームで非同期オペレーションを実行するリソースプロビジョニングを開始しますリソースをプロビジョニングするには、ボリュームグループ内のすべてのドライブがNVMeのDULBE機能をサポートしている必要があります。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminのロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ボリュームグループでリソースのプロビジョニングを無効にするには、フルプロビジョニングコマンドとオプションを使用して、リソースのプロビジョニングを無効にします。すべてのドライブがDULBE対応で、ストレージアレイの「resourceProvisionedVolumes」設定が「true」の場合、ボリュームグループは作成時にリソースをプロビジョニングします。

構文

```
start volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] resourceProvisioning
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroupName」と入力します	リソースプロビジョニング機能を有効にするボリュームグループ。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。

最小ファームウェアレベル

11.73

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。